

新川会通信

第55号

すまいる

発行
社会福祉法人新川会

〒930-0362

上市町稗田字七郎谷 1-32
TEL(076) 472-1112

Tel (076) 472-1118
Fax (076) 473 5301

E-mail votsubaen@nijkawakai.jp

P http://www.niikawakai.jp/

発行責任者 山岸親史



＜テーマ＞ SDGsの取り組み

Red ribbon with bows and small dots.

今年度より、「第4次上市町社会福祉活動計画」がスタートいたしました。本計画にも織り込みましたSDGsの目指す「誰一人取り残さない」持続可能で多様性・包摂性のある社会の実現という2つの方向性のもと、地域住民及び福祉組織・関係者の協働により地域生活課題の解決に取り組み、支え合いながら誰もが安心して暮らすことができる『ともに生きる豊かな地域社会』を実現することを目的としております。

本計画の基本理念を「つながる にぎわう さえあう 安心して暮らせるまち 上市」とし、基本目標1「ともにさえあう「ひとづくり」、基本目標2「安心して暮らせる「地域づくり」、基本目標3「安全・安心な「福祉の環境づくり」の3つの基本目標を掲げ、SDGsに関連した17のターゲットの内、11のターゲットを目指すこととしております。

特に基本目標1の3つの施策のうち「ボランティア活動に参加する人を育てます。」の施策の方向として、ボランティア体験事業の充実を盛り込んでおり、当協議会では、今年度より、「バランスボールツエスター」と題し、地域交流会を開催します。新川会の皆様はじめ、町内の障がい者、ボランティア、福祉関係者、住民等が一丸となり、誰もが楽しめるバランスボールを通じて、お互いの多様性への理解を深め、楽しみながら交流を促進していくクルーズな地域を共に創り上げていくための連帯感や活力に繋げて行きたいと考えております。

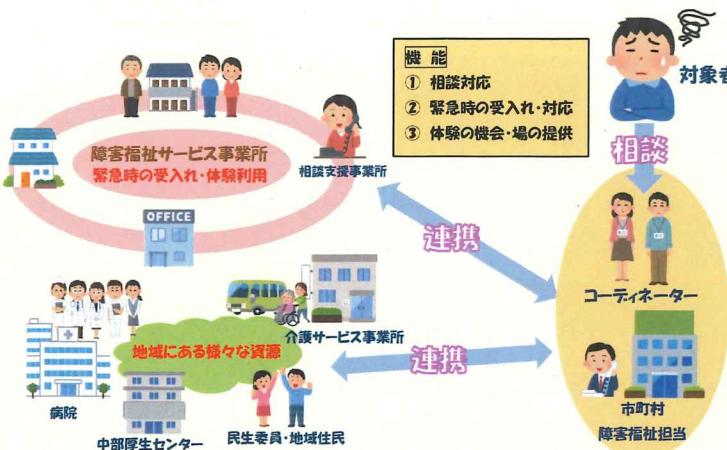
誰一人取り残さない

社会福祉法人上市町社会福祉協議会
事務局長 中村政一

- ① 相談
- ② 緊急時の受入・対応
- ③ 体験の機会・場
- ④ 専門的人材の確保・養成
- ⑤ 地域の体制作り

中新川圏域の市町村においては、現在「地域生活支援拠点等」の整備を進めており当相談室や四ツ葉園、グループホームなどの事業所も一定の役割が求められています。

この「地域生活支援拠点等」とは、障がい者等の重度化・高齢化や「親亡き後」に備えるとともに、地域移行を進めるため、重度障害にも対応できる専門性を有し、地域生活において、障がい者等やその家族の緊急事態に対応を図るもので、次の5つの機能を備えることになっています。



（中川室長 記）

詳しく述べてください。皆さまの生活を地域全体で支えるサービス提供体制の構築を目指していきます。

令和5年9月24日（日）富山県総合運動公園で第23回富山県スポーツ大会のフライングディスク競技会が行われました。種目はディスタンスのみの実施で、グループホームからは参加希望者十二名が

競技に参加しました。久しぶりの参加ということもあり、会場の雰囲気に緊張した様子も見られましたが、本番になると真剣な表情、

競技に参加しました。久しぶりの大会で経験したことを活かして、今後も頑張っていきましょう！

（柿沢支援員 記）

堂々とした姿勢で競技に挑んでいました。
競技外では久しぶりに会う旧友や学校時代の恩師との再会に会話を弾ませ、また他の施設の参加者とも挨拶を交わしたりお話をしたりと交流を図りました。

（柿沢支援員 記）



共同生活支援室 皆でフライング ディスク！

特
集

四ツ葉園だより



★上市町で地域に愛される「立山寺」を清掃しよう！

目指すゴール

- ・歴史ある立山寺の景観を守ります。
- ・地域清掃を通して、地域交流を図ります。
- ・四ツ葉園内でのSDGsに先駆けた取り組みを行い、今後更なる発展を目指します。
- ・新型コロナが第5類に移行し、利用者さんが外に出る機会を作ります。



内 容

8月7日（月）午前、猛暑日が続く中でしたが工芸班の利用者さん達と一緒に上市町の立山寺の清掃活動に行きました。到着後、帽子をかぶり軍手をつけ、除草とゴミ拾いを行いました。普段よりきれいに整えられており、大きなゴミや空き缶が落ちていることはないでの、小さなゴミや落ち葉拾い、除草に専念することにしました。



この日は30度越えの気温があり、利用者さん達や職員もこまめに休憩や水分を摂取し、汗を流しながら30分ほど活動しました。

今後は月1回のペースで清掃活動を続ける予定です。工芸班ができるSDGsの活動を広げていきたいです。そのためにも日々の業務に切磋琢磨して務めていきたいと思います。（野城支援員 記）



★ペットボトルを再利用して納涼祭を盛り上げよう！

目指すゴール

- ・リサイクル活動を通して交流を図り、楽しいひとときを過ごします。



内 容

8月11日（金）に開催した納涼祭では、ゲームコーナーと作ってみようコーナーでSDGsに取り組みました。「輪投げゲーム」では、四ツ葉園で毎日出るペットボトルをゴールのピンとして再利用しました。輪投げの輪も新聞紙を再利用して作りました。折り方を工夫すると、軽くて丈夫でよく飛ぶ輪になります。

作ってみようコーナーでは、ペットボトルを再利用し、もぐら除け風車を作りました。色とりどりの風車が出来上がりました。



（中山支援員 記）

雷鳥苑だより

★私たちの遊び場をきれいにしよう！

目指すゴール

- ・散歩で使用させてもらっている八幡社をきれいにし、いつまでも遊べる環境にします。
- ・地域清掃を通して、地域交流を図ります。



内 容

雷鳥苑では、散歩で八幡社まで行き、遊具で遊んだり、キャッチボールをしたり、椅子に座ったりと憩いの場として使用させてもらっています。普段使用させてもらっている八幡社を何年経っても使用できるようゴミ拾いや草むしりをして、私たちの住んでいる地域を利用者一丸となってきれいにします。9月に入り気温が下がる頃から実施していく、月1回ペースで清掃活動を実施する予定です。無理のないよう楽しくきれいにします。



(廣瀬支援員 記)

さつき苑だより

★楽しく野菜を育てよう

目指すゴール

- ・地域清掃を通して地域交流を図ります。
- ・自分たちで集めた落ち葉を畑の肥料に再利用することで、野菜栽培の意欲につなげます。



内 容

今年度の畝づくりの際に肥料の1つとして落ち葉を使用しました。肥料のおかげもあり、当帰は8月に一度収穫し、入浴雑貨に使用しています。さつまいもも順調に生育中です。



今年の秋には来年度の肥料のため、また地域の交流のために近所の落ち葉拾いを計画したいと思います。

(村上支援員 記)

つつじ苑だより

★ヨガ、3B体操、スローエアロビックで身体を動かして健康な身体を作ろう！



目指すゴール

- ・ヨガ、3B体操、スローエアロビックを通して、気持ちを明るく前向きに、そして日々の健康維持に努めます。

3 すべての人に
健康と福祉を



内 容

今年度より講師をお招きし、ヨガ教室（3回）、3B体操教室（2回）、スローエアロビック教室（5回）をサンアビリティーズ滑川、または滑川市総合体育館にて実施しています。

ヨガ教室は、大井紀子先生、3B体操は、亀澤陽子先生と長尾典子先生、スローエアロビック教室は、片貝仁子先生により行っています。利用者の皆さんはじめて取り組む方が多く、興味深く楽しんで参加しておられます。そして、それぞれの先生の指導により、普段使わない部位を動かし、心地よい疲労感を感じ、健康的に身体を動かしています。今年度は、これらの教室を通して身体を動かしリフレッシュと健康維持に努めています。

（岡部支援員 記）



工房よつばだより

★野菜作りで地域とつながろう



目指すゴール

- ・働きがいを持ち、日々の仕事に取り組みます。
- ・地域の方に「工房よつば」で育てた野菜や果物を食べていただく機会を増やします。
- ・様々な形で販売し、廃棄となるものが少なくなるよう努めます。



内 容

前号のすまいるでも少し触れていましたが、工房よつばの畑では、季節ごとの様々な野菜や果物を栽培しています。日々の栽培から収穫、袋詰めまで丁寧に行い、現在、地域のコンビニエンスストアや商店を中心に置かせていただいている。採れたての新鮮な状態での販売はもちろんのこと、規格外となったものでも、乾燥野菜等、形を変えて販売しています。環境面にも配慮し、廃棄となるものが少なくなるよう努めています。また、収穫した野菜や果物を、利用者の皆さんとの昼食時にいたくこともあります。自分たちで育てたものの美味しさはひとしおのようで、笑顔が広がる時間です。これからも地域に根ざした貢献への取り組みを行い、周囲の方々や自分達の為に働く意欲に繋げていけたらと思います。

（朝岡支援員 記）



共同生活支援室だより

★地域の活動や行事に参加しよう！

目指すゴール

- ・地域活動やイベント、行事の参加を通して地域交流の機会や社会参加を図ります。
- ・利用者さんが外出して様々な活動に参加できる機会を設けます。



内 容

9月8日（金）上市町福祉教育推進委員教職員の方々とかわはらだの家の利用者さんでパラスポーツを通じた交流会を行いました。

パラスポーツとして卓球バレーを行い、チームに分かれて対戦しました。チームの皆さんと声を掛け合いながらボールを打ち返したり、得点につながると一緒に喜び合ったりと楽しい時間を共有しながら交流を図ることが出来ました。



（柿沢支援員 記）

社会参加に向けて

ケアネット見守り活動チーム員
原 由紀子

北野さんは、雷鳥苑に通所してから2年余り経ちました。永く社会参加でき、嬉しく思っています。言葉や会話は旨く出来ませんが、与えられた仕事は真面目に丁寧で助かると聞いています。はじめは休まず通所できるか、トラブルや体調を崩さないかと心配しましたが、ほとんど休むことなく、本人も自分の生活リズムにしつかり取り入れ、働くことで得られる賃金で本人の自信と喜びにも繋がり、頑張っている姿に私も嬉しく安心しています。ここまで行程や支援態勢に持つてくるまでは、手続きや行政障害手帳を取得するま

親の会通信

で大変でしたが、支援員として見守り、まだ心配な事も多々あります。本人の人生の中では仲間と出会い少しでも会話を体験し、この先の人生を少しでも有意義に過ごすことが出来るよう職員の皆様へ日頃の心遣いに感謝しつつ今後もよろしくお願い致します。



